

第3回総合球技場基本計画検討委員会 議事録

日 時	平成 30 年 5 月 7 日 (月) 15 : 00 ~ 17 : 00
場 所	山梨県庁 防災新館 201 会議室
出席者	(委 員) 清水委員長、飯沼委員、佐久間委員、佐藤委員、竹内委員、 土屋委員、長倉委員、布施委員、傍士委員、松野委員、三ツ谷委員 (山梨県) 総合政策部長、総合政策部理事、総合政策部次長、 リニア環境未来都市推進室長、都市計画課長、スポーツ健康課課長

1 開会

(事務局) 本日はご多忙のところご出席いただきありがとうございます。これより第3回総合球技場基本計画検討委員会を開催いたします。

会に先立ち新たな委員のご紹介をさせていただく。(布施委員のご紹介)

あわせて、第1回、第2回をご欠席されました委員のご紹介。(竹内委員、三ツ谷委員のご紹介)

2 総合政策部長あいさつ

(事務局) 委員会の開催にあたり山梨県総合政策部長よりご挨拶申し上げます。

(総合政策部長) 本日はお忙しい中、またお足元の悪い中ご出席いただきありがとうございます。本委員会は昨年12月に設置し今回3回目となります。これまでの委員会では総合球技場を整備検討するに至った経緯、国内外の球技場の状況を説明の上、先生方よりご意見をいただいたところです。本日は検討を進めている球技場のキーワードである「県民みんなの球技場」として利用の最大化をはかりたいという考えから、機能などについてそれぞれご専門の立場より、忌憚のないご意見を頂戴したいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

(事務局) 議事の進行については、委員会設置要綱第4条第1項の規定により清水委員長にお願いします。

(委員長) 昨年度に引き続き、今年度もよろしく申し上げます。いよいよ設計の本質の議論に入っていくこととなる。本日4つの議題があるが、スピーディーに進行していきたい。ご協力をよろしくお願いいたします。

議題1について、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局) 説明に先立ち、ひとことご報告させていただく。委員の皆様には既にご報告さ

せていただいたが、本基本計画の策定支援として公募型プロポーザルによる業者選定を行い、本日ご出席の竹内委員が審査委員長、佐藤委員、傍士委員に審査委員となっていた。2月26日審査を行った結果、日本総合研究所に委託することとなった。

3 議事

(1) 総合球技場の検討における基本的な考え方について

(資料1について事務局より説明)

(委員長)ありがとうございます。

基本構想から3つのキーワードが出てきている。ちょうど富士山のように、頂点に「県民みんなの球技場」があり、その裾野に「県民負担の最小化」と「利用の最大化」があるイメージである。それぞれについてソフト・ハードの面より方策をご説明いただいたので、委員の皆様よりご意見を賜りたい。

(委員)今までこうした委員会に何度も出させていただき、今回久しぶりである。今の説明について、ソフト面とハード面を分けて考えていて素晴らしい。1、2、3と、誰も文句を言えない素晴らしい内容だが、どういう建物にして、どのように使うかが一番大事である。それを具体的に皆さんのご意見を聞きながら作っていくことが大事であり、私が出席した会議の中で、利用者として市民が参加される際、あれもやってほしい、これもやってほしい、あれはやめてほしい等、私から見ると要望が多い。全部お答えしたいのはもちろんだが、あるところでは譲歩し、目配りする、それをどう切り分けるかが大事。

ヴァンフォーレ甲府は、今は確か会社名がヴァンフォーレ山梨。私はJリーグができる前から「地域とスポーツ」として関わっていた。とかくスポーツは選手、監督、勝ち負けが注目されるが、地域密着のJクラブを支援しながら、チームをバックアップする体制が一番大事でないかと思う。最近も月曜日の新聞にはサッカーの勝ち負けの結果が出るが、私が一番関心があるのは勝ち負けよりもそのスタジアムに何人のお客さんが来られたかである。レッズは人気があり、スタジアムも大きいから、さいたまでは2万人も集まっているが、空席が多いのでそれをどのように考えるか。

(委員長)ありがとうございます。

資料1の2ページの基本的な考え方、これをすべて実現すれば最高のものができると思う。そういう意味では他のモデル的なことも視野に入れながら検討していきたい。各地で球技場が設置されつつあり、本県のような後発組は、逆に先行事例がプラスに作用すると言われているので、そういった面も生かしていきたい。

(委員) 基本的な考え方について、よく整理していただいたと思う。山梨県は人口も少なく人口情勢を鑑みても、大きなものをつくるのが将来の大きな負担になることが予想される中、県民負担の最小化・利用の最大化はしっかりとしたコンセプトだと考える。ただ、利用の最大化の中で、スタジアムをつくった時に、の日常的な賑わいについて、スポーツでは、どの大会をやっても賑わいはつくれるが、日常的にどのように集う場所に行けるのかが非常にポイント。収益を上げるという面もあるかもしれないが、そこに皆が集うことにより、県民が安心したり、コミュニティがうまれたりといった、小瀬スポーツ公園の存在をどう作っていくかが難しいと考えている。

(委員) 「県民みんなの球技場」という視点で、女性の意見としてお話できたらと。スポーツ以外のイベントをどのように組んでいくか。球技場をイベントでも利用できるという視点で、みんなで考えていけたら良いと思う。

(委員) この 3 本柱については何の異議をはさむものではない。私のような県外の者が電車で甲府に来ると、だんだん車窓に緑が増えてきて、空が広くなり、地元の皆様がお気づきにならない山梨の良さを感じる。それを最大限に利用すること。もちろん一番大事なことは地元の皆様が自分のスタジアムとっていただくことだが、県外から来られた方にこの緑に包まれた小瀬の空間に魅力を感じていただくことが必要ではないかと感じる。

(委員) 建築の専門家として参加させていただいている。今朝、プロ野球日本ハムの新球場に関するニュースの話題があった。札幌ドームはコンペを行い、非常に有名な建築家が設計された優れた建物。我々は建築物を「ハコモノ」と呼ぶが、本来は使うプログラムがまずあり、ハコを設計する。このプログラムは時間とともに変わっていくが、変わった時に、ハコが簡単に変わらないという問題がある。またもう一つの課題は、つくったあと維持管理に相当お金がかかる。従って、今回 2 万人の施設をつくることにも財政的負担は大きいと思うが、維持していくのに毎年お金がかかる中で、ボリュームを変えたり、使い方を変えたり、運営主体が代わるなど、色々な可能性があることに対し、できるだけ使い勝手を変えられるような設計にしておくことが重要。社会の状況も変わっていく中で、安く魅力的な建物をつくるのも大事であるし、今後どんな風に状況が変わっても、変化に対応できるような余裕を残した設計をすることが非常に大事。その観点からみさせていただく。

(委員) 基本的な考え方に関して異論はない。試合がある日にはある程度人が集まるが、それ以外の時にどう運営していくかについて、建設段階からしっかり考え抜いて、サッカー、ラグビー、それぞれどう使いたいかはもちろん、地域の方々がどう球技場を使いたいのか、山梨の力をどうアピールしていくかを含め最初の段階から作り込み、それを建設計画、

運営計画に落とし込んでいくことが重要。そういったことを数字で落とし込んでいけるのであれば、資金調達の幅も広がっていく。最初の段階でどれだけ細かく分析するかが非常に重要と考える。

(委員)これが本当に「県民みんなの球技場」としての理想であるが、商売には売れる日もあればそうではない時もあり、多様な資金調達や、基本的な経費はかかると思われるので、その面をしっかりと見ていきたい。

基本的に山梨県民は車でのアクセスが多いが、駐車場のスムーズな利用方法や、車を遠くに置いて、子ども、ご老人、障がい者の方々のノンストレスなアクセス、というように山梨県の方々に喜んでいただくのが一番。日本代表級のスタジアムという話も以前あったが、利用回数としては少ない。その中で、基本的にはサッカーやアメフト、皆それぞれに集い活動できるような、色々な利用方法を考えながら山梨らしさを出していけたらよいと考える。

(委員)本日メディアの方々も多く来られており、この議論が県民にどう伝わっていくかは重要。13年前、岡山に赴任した。ファジアーノ岡山は当時地域リーグのチームだった。その時まず地元の皆様に問いかけたのは、「広島カープと阪神タイガースだけを応援していて良いのですか、なぜ地元のチームを育てないのですか」ということ。今や、その岡山はホームゲームで平均1万人集まり、成績も良い。これを考えた時に、ヴァンフォーレは「県民負担の最小化」「利用の最大化」とうらはらのことを掲げている。つまり、岡山はその点をきちんとやってきた。山梨の皆様に思い出していただきたい。1999年から2,3年、ヴァンフォーレ甲府が瀕死の状態、25連敗くらいしてつぶれそうになっていた。そういう時にまさにここにある2と3を使った。その時に皆が一生懸命寄付したり、地元のパン屋さんのパンを提供したり、ボランティア等で支援した。「利用」「管理」という役所的な言葉ではなく、「県民の関わりの最大化」を具体的に考えていくべき。発想の多様化をどう作っていくか。甲府の場合はそれを一度経験し実績もあるから、2と3の解釈や理解の仕方をメディアの方も上手に伝えていただきたい。皆が望んでも、自ら何もしなければ何もならない。望む前に何ができるかを皆さん一緒に考えませんか、というむしろ問いかけのステージかなと思っている。

(委員)これまで山梨県障害者福祉協会より石原が出席していたが、役職が代わり、今回より参加させていただく。これまでの基本構想のご議論を読ませていただいた。基本的な機能だけでなく、付帯機能についても考えていこうというものを強く感じた。その中で、付帯でどういう効果を表していくか。子どもたちも高齢者も障がいがある方も、イベント以外にもそこに集い、効果を発揮できる「みんなの球技場」としての議論ができればと思っている。

(委員) スポーツマネジメントを専門としており、スタジアムが山梨にできることに可能性、わくわくを感じている。周囲の声を聞くと、どうも球技場のイメージについて、“ただのスポーツ施設にそれだけお金をかけるのか”“ヴァンフォーレは2部なのに”と限られた情報の中で捉えられているのが残念。スポーツというものは、なくても生きられるかもしれないが、スポーツがあれば人生が豊かになるという点ですごく大事。スポーツ基本法が2011年に施行され、そこにスポーツは「権利」であると条文で定められており、スポーツにはそれだけ価値があり、楽しんだり生活に取り入れることは重要と示されている。球技場はただのスポーツ施設ではなく、失礼ながらヴァンフォーレはただの酒のつまみであっても良いと思っている。酒のつまみはラグビーでも、アメフトでも良いし、山が見え、大型ビジョンがあり、もしかしたらスポーツ以外を観られる施設であってもいいが、主役は県民。新しい球技場をどう使い、どう楽しむかは県民にゆだねられるような、自由度があり成長していけるスタジアムにしていきたい。するスポーツ、観るスポーツ、支えるスポーツと言われるが、選手が活躍でき、お客さんの居心地が良く、あるいは県民が自ら企画し主体的に動きやすいようなスタジアムが山梨県ならできるのでは。委員の皆様の知見を結集し、すごく明るい未来がひらけると期待している。

(委員長) 設計の基本的な考え方に関することであるため、敢えてひとつおき委員から聞いた。追加のご意見はよろしいか。基本的には基本構想を受け継いだ3つの考え方には異論はなかったと思う。県民が第一であること、その意味では3つ目は単なる「利用の最大化」というより、「県民関わりの最大化」の方が良いかもしれない。その方が県民第一ということが伝わるのではないか。しかし、同時に県民の自己満足では意味がないので、県外や外国から山梨を訪れる人にも満足するような球技場としていきたい。3つ目の県民の関わりの最大化は項目も多く、さらに議論が必要かもしれない。基本的な3つの視点については本日の議論の中で概ね了承され、その上で議題2,3,4の議論を踏まえ、さらに部分修正していければ良いかと考えている。

(2) 総合球技場の基本的要件について

(資料2について事務局より説明)

(委員長) ありがとうございます。

議論の前に、Jリーグの基準はだんだん厳しくなっているのかについて、おわかりの方にお聞きしたい。

(委員) 基準については2010年に大幅に項目が増えた。それ以降は特に厳しくするという

ことではなく、むしろ求められている環境をJリーグの基準に落とし込んでいる。例えばメディアの環境について、Jリーグ開幕の頃はワープロで打ちファックスで送り、写真はスタジアム内の暗室で現像して送るという時代だったが、いまやパソコンで記事を送り、写真もゴール裏からすぐに送る。こうした求められている環境を基準に落としている。それほど厳しくなっていないが、例えば屋根、トイレ等については、見る方の視点、報道の視点、ビジネスとしての視点に立って厚くなっている。

(委員長)ありがとうございます。今の中銀スタジアムは、メインスタンドの一部が屋根という状況のため十分でないということになる。

(委員)Jリーグは将来的には基準の運用を厳格化せざるを得ないようだが、現状、(基準は満たしているが)小瀬中銀スタジアムは照明の明るさがかなり不足している。放送室は、実際には建物の中になければいけないが外側にあるため、自分たちで囲いを作り、部屋として認定していただいている。かなり施設側に配慮していただいているのが現状である。これが厳格化され、新スタジアムが各地にどんどんできていくと、そこに基準を合わせざるを得ないと感じている。

(委員長)ありがとうございます。その上で、ご意見等お聞きしたい。

(委員)委員に質問したい。4ページの大型映像装置について、最近のヨーロッパのスタジアムを見ていると今のような大規模かつ固定化ものでなく、軽量のスクリーンである。昔のように選手の紹介がそこまで必要ないので、軽量スクリーンを2台置けばよく、今は大型スクリーンでは前の席の人は見えない。装置に関する世界の流れと、それによるコスト負担減についてお聞きしたい。

(委員)スポーツ施設の大型映像装置については、日本は先進国だと思う。大型映像装置自体のサイズや仕様について、Jリーグには大きな決めはない。大型映像装置が規定に含まれる前までは、両チームの選手名と背番号がわかる名板や時計の設置が各スタジアムに義務付けられていた。それらをスクリーンに映すことができれば、大型映像装置だけで済ませることができる。最近では、大型映像装置がただ動画のリプレイを映す時代から変わり、スポーツビジネスとして、コマーシャルを流して収入を得たり、ゴール裏のテレビカメラを大型映像装置の上にのせる等の要件が求められており、「留意すべき事項」として、Jリーグとしてもメモ書きを残している。サッカー、ラグビー、アメフト等はライブで観るにあたり、野球ほど大型映像装置のニーズはなく、過度に大きいものは必要ない。むしろCM効果等により、ひとつのエンターテイメント空間を演出しているというのが実態。

(委員) Jリーグの定める最低限の条件は満たす必要があるが、それ以上のスペック・機能も集客の面で必要となってくる。その中で、日本のスタジアムの現状やこういった課題があるかというものをスタジアムアセスメントレポート 2016 にまとめた。日本の J1、J2 の全スタジアムを調査したもの。説明させていただいてよろしいか。

(レポートの説明)

(委員長) 基本的要件についてはあくまでも最低の必要要件となる。必要要件であるが十分条件ではない。その部分が、今説明いただいた部分と考えることができる。

(委員) スタジアム基準に適合するかどうかというのはあるが、芝生の問題がある。新しいスタジアムにおいて、芝生の生育を考えた時に、84m×124m をうまく使える可能性はあるが、屋根がつくことにより日照時間が少なくなる。同時に利用率の最大化に伴い芝生の上で色々な競技が行われていく中、芝生のことやスタジアムの向きも条件整備の議論に加えていただきたい。

それから、駐車場が遠い。今後駐車場の用地確保も踏まえ、どのようにスタジアム周辺に車を止め、スタジアムに足を運んでいただくか、動線も検討していただきたい。

(委員長) 基準の中に今ご指摘の項目を入れていただきたいということだが、事務局から何か意見はあるか。

(事務局) 貴重なご意見をありがとうございます。南長野の視察においても、日照を考え南側のスタンドを低くするなどしており、芝生の生育環境の視点は重要と考えている。芝生についてはスタジアムの形状を考える中でまたご議論いただきたい。駐車場についても、全体的な規模・機能、動線、具体的な位置・台数についても基本計画の中でご議論いただきたいと考えている。

(委員) 3点、本日結論を求めているわけではないが、テーマとして共有しておきたい。1点目は、収容人数2万人程度。この「程度」が重要なポイント。今のJリーグの基準は1万5千人。J1の平均入場者数が1万7~8千人で推移していることから2万人程度とした経緯があるが、今後、スタジアムの付帯設備やスペックを考える際に、例えばラウンジを備えた快適な座席を1万5千人設置するのと、体育施設レベルでの2万人と、どちらが良いかと言えば、皆さん快適な1万5千人を選択すると思う。必ずしも2万人なければいけないと考えてほしくない。1万5千人をクリアした状態で何がベストかを追求する方が良いと思う。

2点目は、2ページのフィールド寸法について、サッカーとラグビーとの調整が必要だと思う。サッカーの図面は芝生のアウトサイドに3mずつ余白を作っており、これにより84m

×121mとなっている。欄外に必要な天然芝の面積は78m×115mとある。一方、ラグビーの図面は余白が2mずつ。必要な天然芝は80m×120m。ラグビーの場合100mコートに10mずつのインゴールがあり縦が120mとなっている。実は、最近できた北九州のスタジアムは、インゴールが7.5mずつになっており、ラグビー協会がこれを認めている。スタジアムにおけるフィールドサイズを小さくすると、建設コストを抑えられる。サッカーの3mの余白を2mに変えただけでも小さくなる。ラグビー協会の中には、インゴールが6mや8mでも良いとおっしゃる方もいる。最低限の数字が出れば、もっとコンパクトにでき、建設費は必ず安くなるので、ラグビー協会と調整確認をお願いしたい。

3点目は3ページの諸室機能について。詳細は設計の段階で確認したいが、現在、中銀スタジアムへ行くと、おびただしい数のテントが目に残る。前日や早朝からボランティアが設営し、試合終了後撤去し、強風時は危険だから閉じるといったテント頼みの昭和のイベントはやめて、そのようなエネルギーは来場者に向けてほしいと考えている。専用球技場というのは、そこに選手と審判とボールが来ればすぐに競技ができ、設営・撤去は必要ないということが基本的な要件であることを共有いただきたい。

(委員長)あまり気づかない3点のご指摘だと思う。ありがとうございます。本日決定することではないので、そのほか何かご意見はあるか。

(委員)屋根について。昔海外の施設をいくつか見た中で、例えばフランス競技場のように平らな屋根もある。日本は皆上を向いており、雨が吹き込んできて、なぜ屋根をつけたのかと思う。グラウンドの下の方を見るのであれば、極端な話屋根は下向きでも良い。日産スタジアムは陸上のためと聞いているが、観客席のスロープの傾斜がなだらか。100mトラックのゴールが見えるのが一番良いという設計をされたと聞いた。サッカーを見ていると、建築基準法で決まっているのかもしれないが、海外のスタジアム等、すごく急な角度である。落ちそうな感じもある。どのようにしたらより見やすいのか、座席のクッション等の検討も良いが、もう少し基本的な部分を検討したい。

トイレについては、洋式、和式とあるが、個人的には和式は今の時代ではどうかと思うが、それも人それぞれだと思う。トイレもどのようにしたら良いか、検討していただきたい。Wi-Fiについては、IT活用が大変盛んな時代の流れもあるが、正しいデータはヴァンフォーレのサイトから見てくださいますと言うためには、試合やスタジアムの運営だけでなく、情報発信についてもきっちりやっていただくことが大事だと思う。

(委員長)屋根については専門的に何か考えられるか。

(委員)屋根については、雨・雪などを落とす向きや樋を設置する関係上、基本的に先端を下げることはしない。ただし、技術的には自然条件に応じてある程度勾配を緩やかにす

る自由度はある。海外だと膜構造の屋根などもあり様々な屋根形状が実現しているが、コストに響く部分でもあるので、コストとのバランスで決めていくとよいと思う。

(委員)「みんなの球技場」という観点でいくと、バリアフリー、ユニバーサルデザイン等、色々な部分に配慮していくものと思うが、その点についてもいずれかの時点で書き加えていただくと、「みんなの球技場」というイメージが上がると思う。

(委員長)ありがとうございます。今の点も施設要件に入っているものと思う。南長野の視察時にもキッズの施設や障がい者の施設も含まれていた。

(委員)障がい者の話が出たが、座席の中で、2,3年前にある新設の野球場に行った際、座席の一番上に障がい者の車椅子席があり、お付きの方の席もあった。車椅子使用の知人が言うには、車椅子の方にとっては良いが、他の障がいを持っている方にはどうかと思うこともあるという意見であった。その辺りの線引きも大事。また、アメリカの野球スタジアムの話も紹介してくれた。友達何人かで行った時に、真ん中の座席を外すと車椅子が入ることができ、友達と同じ場所で一緒に観られる、それが良いと言っていた。日本では、みんなで来たけど一人だけ違う席になるということがあり、それは違うのではないかと思う。経費の問題等あるかと思うが、障がい者で分けるのではなく、みんな一緒に楽しむにはどうするのが良いか。車椅子用のエレベーターをつくるのが大事ではなく、私たちが、どうしましたか、とか、一緒に観ましょう、と言える環境が大事ではないかと思った。

(委員長)大学では、車椅子の学生のいる授業はなるべく1階の教室を使う。何か災害があった際に、上の階だと避難にかなり苦労するので、下の階に持ってくるという考え方がある。障がい者の方のための要件は大事な視点である。まだご意見はあるかと思うが、次の付帯的機能にも関連するため、次に進みたい。

(事務局)基本的要件について様々なご意見をありがとうございます。いただいたご意見を踏まえ、整理して次回以降の検討委員会にてお示ししたい。

(3) 総合球技場の付帯的機能について

(資料3について事務局より説明)

(委員長)ありがとうございます。各委員から一言ずつご意見をいただきたい。

(委員) 写真付きで大変興味深い資料であった。特に可能性を感じているのは、山梨ならではのスタジアムをと考えた時に、VIP ラウンジやスカイボックスをしっかりと整備すること。山梨には無尽文化があり、無尽というのは定期的に集まる機会、飲食がキーとなる。無尽をスタジアムで毎回してもらえるような設定を整えれば必ず収益につながると思う。昼間であれば、主婦層がわいわい集まれる場として提供できるような、空間だけでなくそこで調理して食事を出せるような設備をぜひ検討していただきたい。北九州ミクニスタジアムは素晴らしいボックス席が整備されていたが、調理の部分は、温めるくらいしかできず、もったいなかった。常設のレストランを入れることは難しいかもしれないが、出張で調理ができる施設を入れてほしい。

(委員) この球技場だけでなく小瀬全体の有効活用や役割分担を考えていかなければならない。障がい者のスポーツという立場でいくと、なかなか優先的に使えるところが少ない。障がい者スポーツセンターとして優先的に使える施設を持つ県もある。せっかくみんなが集まれる施設をつくる中で、障がい者や高齢者が安心して使える附帯施設を考えるのも良いのではないか。

(委員) 現状、これから何を選ぶかではなく、むしろ山梨としてどんなアイデアがあるのかということではないか。目的も、お金を稼ぐというよりも、まずは山梨として日常性のあるもの、もっと言えばこのスタジアムを広場として考えた時に何に使えるか。例えば山形でいう芋煮会。そういったものがスタジアムとつながる気がしている。

(委員) 屋内練習場の部分とか、普段から地域の人たちにフットサルを楽しんでもらうとか、ランニングバルコニー等は継続してもらうことにより普段のイベントがない時の集客につながるのではないか。そのほかマルシェ等のイベントにより地域とつながることがとても重要。

私も学生時代からサッカーをやっているが、社会人となってもサッカーのつながりは多いと思うので、フットサルコートを作ってほしいなと思う。集まって大会をしようとか、皆が集まれるような場所にすれば、交流が生まれると思う。

(委員) 皆さんするどい指摘をされていると思いつつ、ハードとソフトのほかに、もうひとつ、ヒューマン、人間がどう関わるかが大事だと考えている。ハードとソフトだけでなく、サッカー好きの人もたくさんいらっしゃるし、運営時のボランティアの方もいる。そういう方々がどこに集まって何をするかを考えると整理できる。アントラーズ(鹿島スタジアム)ができた時には本当にここでいいのかと思ったが、今はチームも強くなっている。特に素晴らしい運営をされていると思うのが、地域の方のためのプログラムが考えられ、サッカー好きではなくとも、交流できるプログラムがある。

選手を指導する方々が一般の方の指導をする、健康面で手伝える等、今持っている資源を使った関わりの中で、県民にこんなことができる、という広がりがあると良いと思う。

(委員) 付帯機能はつけすぎても過剰にコスト負担がかかるし、足りなくても施設としての充実度が下がり利用されず、県民負担の最小化と県民利用の最大化を一番考えた時に効率的な活用という点は重要。レポート 14,15 ページでも効率活用という部分が重要であると捉えている。適正規模のスタジアムをつくり、建設費用を抑える代わりに多様なシート等でチケット単価を上げられるように建設していくことも大事。さらに試合のない日にイベントで活用してもらおうという意味でも、ビジネスラウンジやスカイボックス等の活用も大事。そういった意味でも、県民の方々にどういったニーズがあるのか、そして、そのニーズをうまく落とし込むことが非常に重要。県民ニーズの把握は重要。

(委員) 付帯設備はメインスタンドの話になるが、サブスタンドは空調等なく、ランニングコストはかからない。メインスタンドは維持だけでもコストがかかる。それを誰が運営するのかという視点が重要。メインスタンドは民間で運営するという可能性もある。テナントが使用し、運営も責任を持ってやっていただく民間導入の方法もある。採算が取れなければ出て行ってしまうという危険性もある。このため、まずは運営のめどを立てた上で、県民のためにもなるし、事業者もビジネスとして成立するという妥協点をはかる。そのためのハコはどうあるべきか。そういった視点でも相談していきたい。

(委員) 利用の最大化というところでは、スタジアムに通勤する、学びに行く、買い物に行く、こういう機能をどれだけ持てるかに関わってくる。そしてどれだけテナントを増やせるか。例えば、委員の先生方で、大学で教えていらっしゃる方には、こういう機能がラウンジにあればスタジアムでオープンキャンパスができる等、お知恵をいただきたい。今までのスタジアムにない利用ができるのではないか。

(委員) ヴァンフォーレ甲府は 250 社のスポンサーがいらっしゃる。多業種の方がいらっしゃるので、皆様と、スタジアムができたあかつきにはラウンジをどのように使うのか、協力させていただく必要がある。

どのようなものをつくっても最後は県民の関わりの最大化。精神論かもしれないが、スタジアムができたから皆で賑わいをつくってあげようというものがまずないと、絵に描いた餅になってしまう。

(委員) 小さい子を持つお母さん方から、授乳しながら試合を観戦できたらいいなという声を聞く。授乳室が別室なのではなく、向こうからは見えないが、こちらからは授乳しながらでも観戦できると良いと思う。

山梨にはスポーツ少年団等が多いので、少年団等が自由に使えるような、天然芝とは別の人工芝で貸し出してもらえるところがあったら良いと思う。

(委員長) 私からも一言。日本が世界に誇れる教育産業のひとつに学校体育がある。夢かもしれないが、山梨県にスポーツの英才の義務教育(小学校)があると良いと思う。そこで小学校の授業カリキュラムをこなし、多種のスポーツもこなし、一流の選手を育てる。そこで育った人たちが世界でメダルを取りそしてパレードをすれば、大勢がここへ集まる。ひとつの人材育成の場として、学校教育とのタイアップが考えられる。それでは、「県民みんなの球技場」という考え方のもと、県民ニーズの把握が重要となってくるので、その説明をお願いしたい。

(4) 県民ニーズの把握について

(資料4について事務局より説明)

(委員長) 何かご意見あるか。

なければ以上で本日の議事は終了とさせていただきます。

ありがとうございました。

(事務局) 進行、貴重なご意見をありがとうございました。

次回の開催につきましては調整中。改めてご連絡させていただきます。

以上をもちまして本日の委員会を終了とさせていただきます。長時間誠にありがとうございました。

以上